

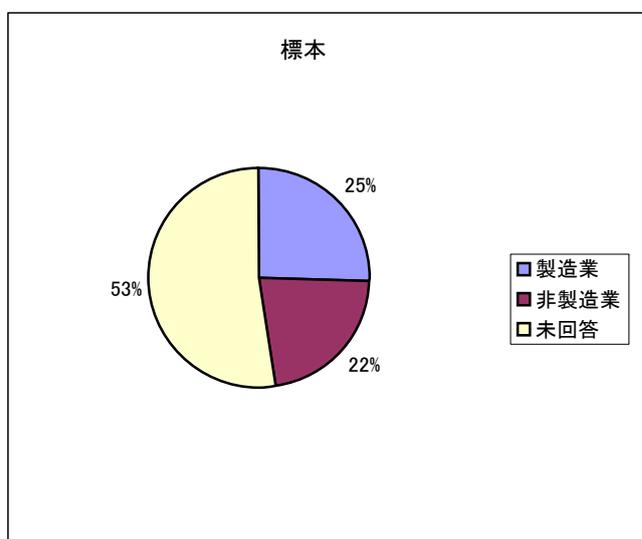
A. 調査概要

1. 調査目的 四半期ごとに景気動向調査を実施し、管内景況を恒常的に把握する。
調査を実施し恒常的に管内景況を把握する。
2. 調査期間 平成18年5月1日～10日
3. 調査方法 FAXにより依頼、回答
4. 調査対象 当所部会役員131社中、大企業を除く中小企業114社

※DI値＝「好調＋やや好調」(持ち直す)の回答割合から「悪い＋やや悪い」(悪化する)の回答割合を差し引いたもの。数値が高いほど景況感が良く、低いほど悪い。
プラス100が最高値、0が平均、マイナス100が最低値を示す。

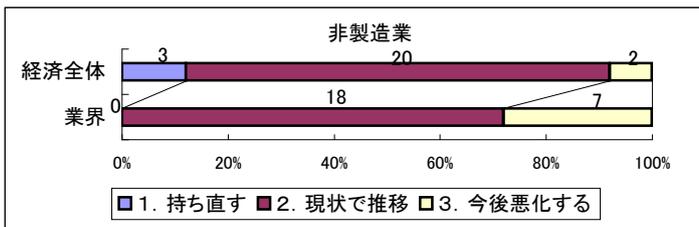
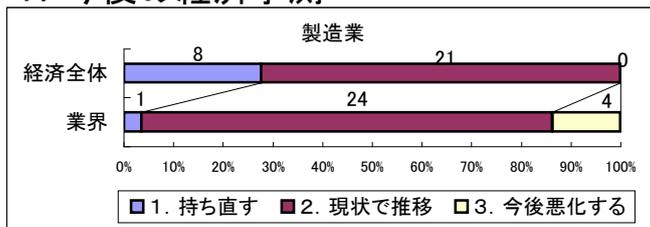
5. 標本数

	調査対象	回答		調査対象	回答	回答
一般工業	17	10	製造業	67	29	43.3%
建設業	17	6	非製造業	47	25	53.2%
醤油工業	4	3	合計	114	54	47.4%
食品工業	10	4	未回答		60	52.6%
皮革工業	19	6				
公益業	11	9				
サービス業	9	4				
商業	27	12				
合計	114	54				

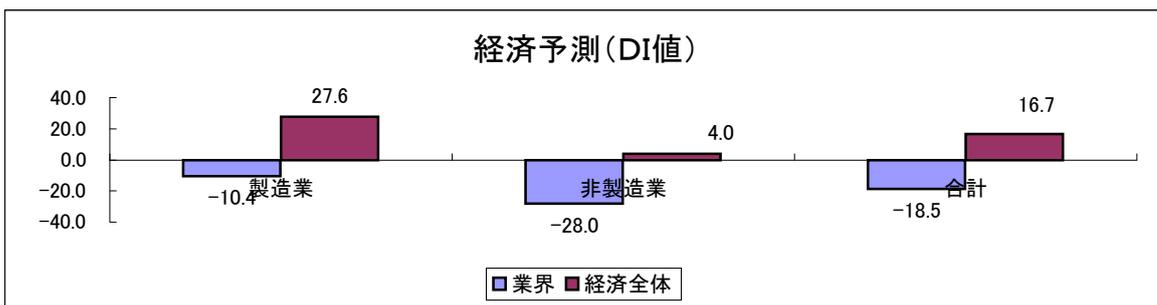


B. 調査結果

1. 今後の経済予測



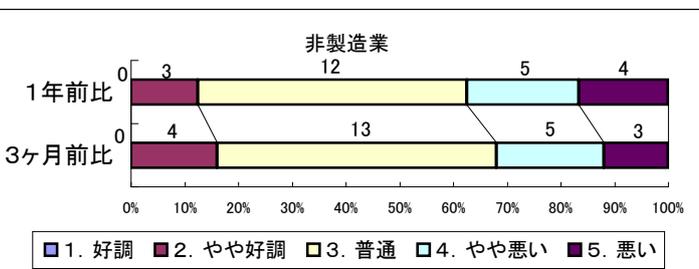
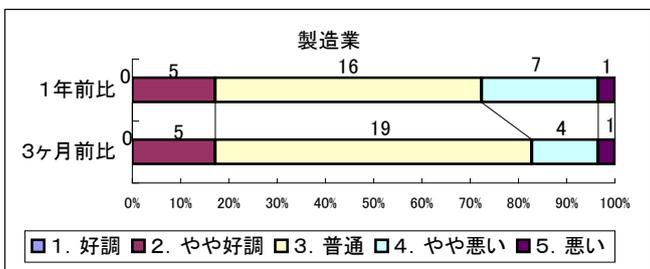
DI値	業界	経済全体	業界(前回)	経済(前回)
製造業	-10.4	27.6	-5.1	30.7
非製造業	-28.0	4.0	-9.3	25.0
合計	-18.5	16.7	-7.1	28.2



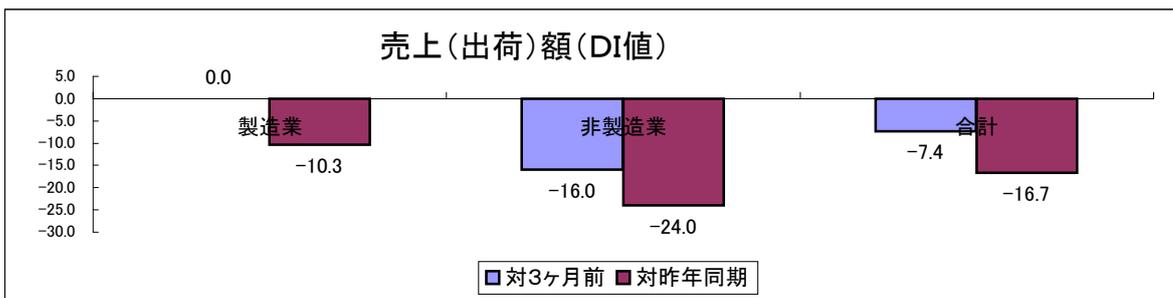
業界の経済予測において製造業では、DI値が5.3ポイントダウンしたものの、3期連続して大幅な変動は見られなかった。一方、非製造業では、前回、前々回と好調であったが、今回18.7ポイントと大きくマイナス値を拡大させた。

また、経済全体の予測では、製造業において3.1ポイントプラス値が低下したものの、昨年11月調査でマイナスDIを脱してから継続して20%超のプラスDI値を記録。同様にマイナスDI値を脱し、好調であった非製造業では、21ポイントと大幅にプラス値の低下となった。

2. 売上(出荷)高について

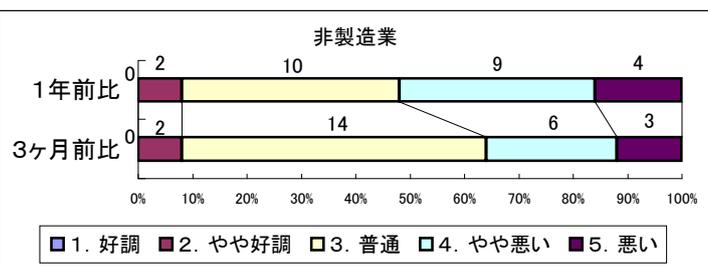
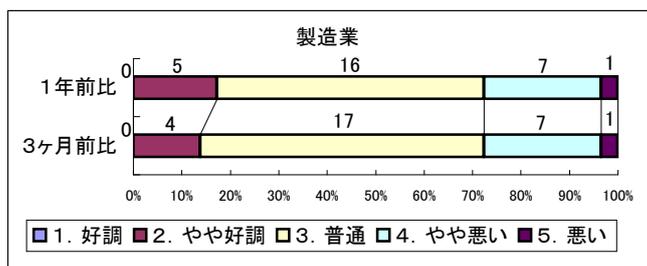


DI値	対3ヶ月前	対昨年同期	対3ヶ月前(前回)	対昨年同期(前回)
製造業	0.0	-10.3	-20.5	-10.2
非製造業	-16.0	-24.0	-31.3	-15.6
合計	-7.4	-16.7	-25.3	-12.7

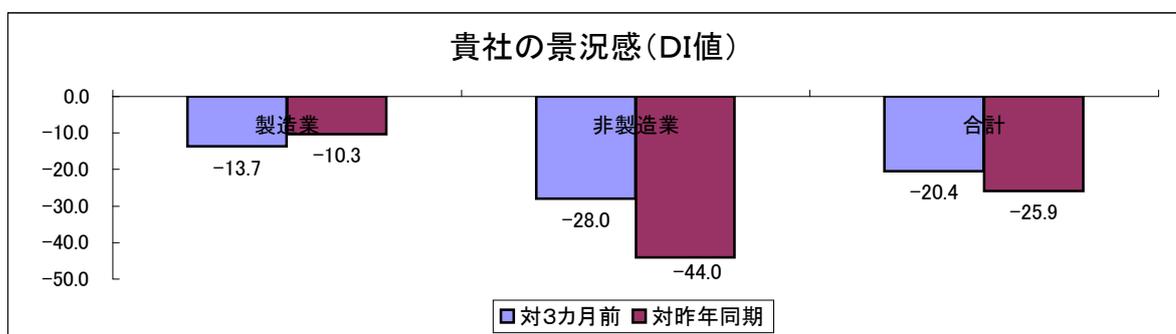


対3ヶ月前比において、製造業で20.5ポイント、非製造業で15.3ポイントと両業種ともに大幅にマイナス値を縮小した。特に製造業ではマイナスDI値を脱し、昨年の同期調査結果と比較しても数値が良く、景気回復感の底上げが窺える。また対前年比では、製造業でわずかに0.1ポイントマイナス値の拡大も、4期連続しておおむね横ばいの安定基調が続いている。一方、非製造業においては8.4ポイントマイナス値が拡大した。ただし、本項目においてはDI値の変動が激しいことから今後の動向には注意が必要である。

3. 貴社の景況感について



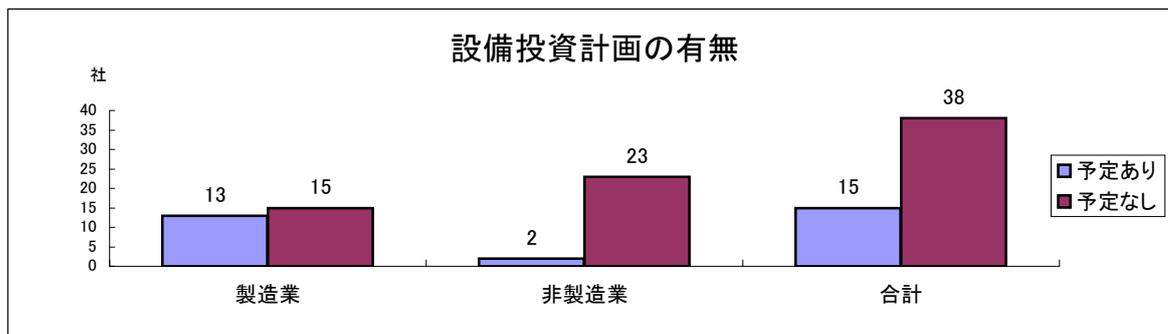
DI値	対3カ月前	対昨年同期	対3ヶ月前 (前回)	対昨年同期 (前回)
製造業	-13.7	-10.3	-12.8	-15.4
非製造業	-28.0	-44.0	-25.0	-6.3
合計	-20.4	-25.9	-18.3	-11.3



対3ヶ月前比においては、製造業で0.9ポイント、非製造業で3.0ポイントマイナス値が拡大したものの、大きな落ち込みは見られなかった。一方、対前年比において製造業では5.1ポイントマイナス値を縮小したのに対し、非製造業ではマイナス値を37.7ポイントと大幅にマイナス値が拡大した。

4. 設備投資計画について

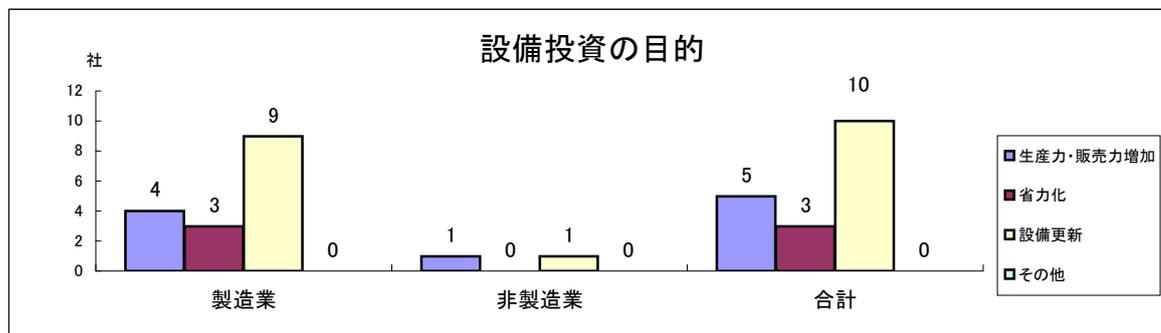
	予定あり	予定なし	無回答	合計
製造業	13 [44.8%]	15 [51.7%]	1 [3.4%]	29 [100.0%]
非製造業	2 [8.0%]	23 [92.0%]	0 [0.0%]	25 [100.0%]
合計	15 [27.8%]	38 [70.4%]	1 [1.9%]	54 [100.0%]



製造業では約45%、非製造業では約8%が設備投資を計画している。

5. 設備投資目的について

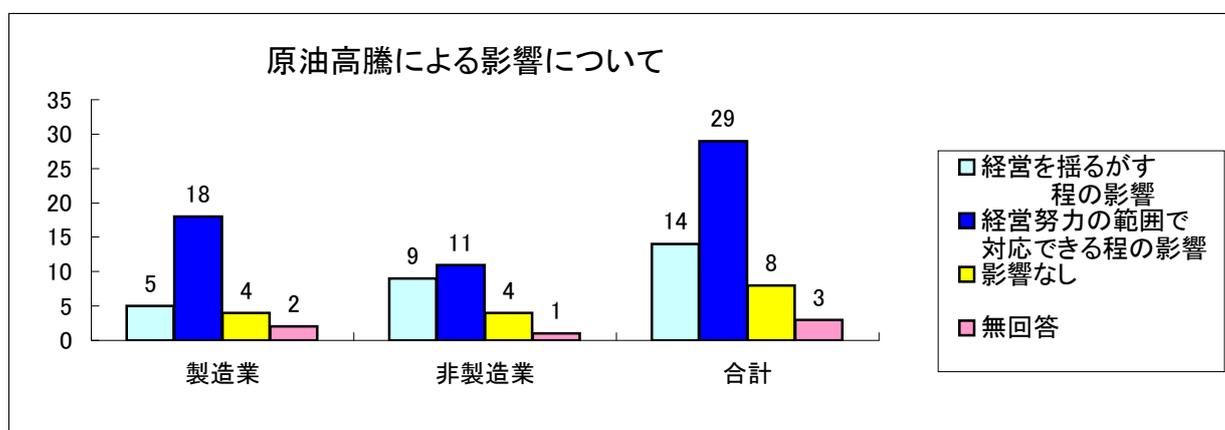
	生産力・販売力増加	省力化	設備更新	その他	合計
製造業	4	3	9	0	16
非製造業	1	0	1	0	2
合計	5	3	10	0	18



製造業・非製造業ともに設備更新への投資計画が多く、全体の半数以上を占めた。

6. 原油高騰による影響について

	経営を揺るがす程の影響	経営努力の範囲で対応できる程の影響	影響なし	無回答	合計
製造業	5 [17.2%]	18 [62.1%]	4 [13.8%]	2 [6.9%]	29 [100.0%]
非製造業	9 [36.0%]	11 [44.0%]	4 [16.0%]	1 [4.0%]	25 [100.0%]
合計	14 [25.9%]	29 [53.7%]	8 [14.8%]	3 [5.6%]	54 [100.0%]



両業種ともに、「経営努力の範囲で対応できる程の影響」の回答が最も多かったが、「経営を揺るがす程の影響」との回答は、製造業で約17%だったのに対し、非製造業では36%と倍近い数値となった。

コメント： 業界・経済全体の予測において製造業では、厳しい評価を受ける業界予測でマイナスDI値が拡大したものの、値としては3期続けて回復基調の水準を維持しており、経済全体予測でもプラスDI値を継続し、回復基調を維持している。逆に非製造業では、業界、経済全体予測両方とも大幅な落ち込みを記録。昨年8月以降見え始めていた景気の回復感の流れを今後、取り戻していくのか注目される。

また、売上(出荷)高では対3ヶ月前比において製造業・非製造業ともにマイナス値を大きく縮小。製造業においてはマイナス値を脱し、昨年同期調査と比較しても景気の底上げが感じられたが、対前年比を見ると製造業では、ここ4期安定基調、非製造業では8.4ポイントマイナス値の拡大と若干ギャップが見受けられる。

景況感では、対3ヶ月前比において両業種ともわずかにマイナス値を拡大したものの大きな落ち込みは見られなかった。しかし、対前年比では製造業で5.1ポイントマイナス値を縮小したのに対し、非製造業では37.7ポイントと大幅なマイナス値の拡大と逆の結果が得られた。今回の調査において製造業では、昨年中旬から続いている回復傾向は維持しているものの、これまでの勢いは鈍化してきた。一方、非製造業では同様の回復傾向が今回見られず、先行き予測においても不安定と予測されるところが多く、今後、どのようにDI値が推移していくのか注目される。